

■巻頭言 特別支援教育における大きな課題； 行動問題への対応は誰が？

筑波大学附属学校教育局教育長 宮本 信也

2007年4月、特別支援教育が正式に開始されてから丸10年が過ぎました。今では、特別支援教育という用語はすっかりなじみのあるものとなりました。それでは、特別支援教育は、全国の学校、特に通常学校の通常学級に根付いたと言えるのでしょうか。もちろん、さまざまな問題を示す子どもたちへの通常学級の先生方の理解は広まり、深まりました。しかし、どこでも同じ教育的支援が受けられる状況までには行っていないような印象を感じます。

特別支援教育の特徴は、私は個人的には、対象の拡大、場の拡大、時間の拡大だと思っています。対象の拡大とは、「LD, ADHD, 高機能自閉症等」などの知能障害を伴わない発達障害が対象となったこと、場の拡大とは、通常学級が支援の場として設定されたこと、時間の拡大とは、乳幼児期から就労までを見据えた「個別の教育支援計画」の策定が勧められるようになったことを、それぞれ意味して私は述べています。

こうした特別支援教育の特徴の中で、学校現場に最も大きな影響を与えたのは、対象の拡大であったように思われます。場の拡大は、対象が拡大され、通常学級に大勢いる児童生徒が対象となったため、必然的に生じた状態と考えることもできるでしょう。実際、特に通常学級において特別支援教育の対象とされている子どもたちのほとんどは、知能障害を伴わない発達障害のある子どもたちです。そして、その子どもたちのほとんどで、集団逸脱や対人トラブルなどの行動面の問題が見られることが、通常学級における特別支援教育が全国どこでも一定の水準に至ることの難しさの背景となっているように感じられるのです。

児童生徒の行動問題に対し一定の対応が、学校内で行われてきたこと、そして行われることが期待されていることは確かでしょう。しかし、通常学級の先生方が持つ主な方法論は教育的指導の方法論であり、教科学習等のいわゆる学習指導には有効なものですが、行動問題への対応には一定の限界があることが少なくないように思われます。行動問題に対し教師が対応できる範囲と外部へ依頼した方がよい範囲に関し一定の手引きの作成が必要なように思われます。外部への依頼では、現在のわが国では医療機関が選択されることが少なくありません。しかし、そうした相談に対応できる医療機関はまだ限られており、迅速に応答することが難しい状況があります。そこで、理想を言えば、発達障害児における行動問題への助言・指導、また直接の対応ができる専門家を都道府県の教育研修センター等に配置することが求められると思われます。さらに言うならば、そうした専門家を外部に探すのではなく、教育自らが育成するくらいの方針を出していただきたいと願うものです。



■現職教員研修 研究成果報告会

研修成果報告会が3月8日（木）に行われ、研修生が、各自の課題研修テーマについて人間系の先生にご指導頂きながらまとめた論文を発表しました。一年間の研修の集大成を報告する場でもあるこの会に、研修生達は夜遅くまで資料を作成したりリハーサルを重ねたりして臨みました。



今年度の現職教員研修では、研修生全員が知的障害や発達障害領域に関する研究を行いました。ですが、それぞれ対象とする年齢、教科や領域、研究方法が異なり、また、取り組むテーマも特別支援学校における個に応じた支援の導き方、デイサービス（地域）との連携、キャリア教育や就労といった高等部での指導内容、普通学校における特別支援教育の実践などと多岐に渡っていました。今回報告会に参加して、知的障害や発達障害を様々な角度から捉えた、大変内容の濃い発表を聞くことができました。加えて、研究の背景には合理的配慮や障害者差別解消法などが踏まえられており、公立の特別支援学校における関心や取り組み、課題意識について知る機会ともなりました。

質疑応答の時間には参加者からいくつも質問や助言が出され、研修生達は落ち着いた様子で答えていました。質問を受けて改めて説明を加えたり考えを述べたりすることで、論点を整理したり、今後研究をより深めるための課題や成果を実践に活かす上でのヒント得たりしたように伺えました。

研修成果報告書はセンターで保管しています。閲覧が可能です。関心のある方は、是非センターまで声を掛けてください。

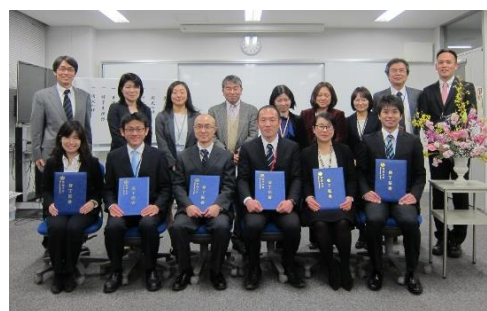
<平成28年度 課題研修テーマ>

- * 根拠に基づく意思の推察と本人・保護者との対話を含む意思決定支援を基盤とした合理的配慮の提供
ー重度知的障害児への合理的配慮が本人主体であるためにー
- * 千葉県内知的障害特別支援学校と放課後等デイサービスの情報交換・連携に関する研究 ー学校側への調査と実践研究を通してー
- * 共生社会における知的障害のある後期中等教育段階の生徒の資質・能力について ～（A県）の高等支援学校における育むべき生徒の資質・能力の一考察～
- * A県立知的障害・知肢併置特別支援学校高等部における合理的配慮の提供への対応状況に関する調査研究 ～解消法と改正促進法の教員の知識と指導意識～
- * 漢字の習得に困難のある小学校3年生への漢字の指導の検討 ープランニングを促進する指導の実践ー
- * 特別支援教育の視点を生かした授業づくり支援 ー「授業研究会のプロセスへの支援」と「授業コンサルテーション」の比較ー

■現職教員研修 修了式

成果報告会終了後に修了式が行われ、岡センター長より研修生一人一人に修了証が手渡されました。

来賓として、松本末男教育局次長がご出席くださり、研修生への祝辞と励ましの言葉を贈ってくださいました。その中で、一年間に研修したことをそれぞれの現場に帰って同僚の先生方に広げること、また、研修したことをどのように活かすかをじっくり考えることなどが研修生に託されました。研修生からは、有意義な研修をすることができたとの感謝の言葉が述べられました。



4月から6名の研修生が、研修成果報告書として論文にまとめた特別支援教育に対する知見、講義・演習やゼミに参加して得た知識を活かして、学校や地域のリーダーとして活躍されることを願って、修了式を終えました。

■現職教員研修 指導教員から一言

一年間指導にあたって下さった4名の先生にメッセージを頂きました。お名前順に紹介します。



＊岡崎 慎治 先生＊

センターの研修生をお迎えしたのは当方にとっては初めてのことでしたが、学類の内地留学に来られる先生方とはまたちがった関わりとなり、とても勉強になりました。教育相談での指導支援などの学ばれたことを活かして引き続き現場での指導支援の充実に資するような研鑽を続けていただければ幸いに存じます。ご修了おめでとうございます。



＊小島 道生 先生＊

修了おめでとうございます。1年間の研修は、いかがだったでしょうか。教師生活のなかで、1年間現場を離れて、大学での講義や研究、そして教育実践に触れることは、これまでの実践を見つめ直す貴重な機会になったことと思います。1年間の学びを、是非、これから現場でいかしてください。皆様の益々のご活躍を期待しています。



＊柘植 雅義 先生＊

研修生の皆さん、修了おめでとうございます。研究に没頭した1年間、楽しかったと思います。でも、実はこれからの年月の方がもっと楽しいと思います。なぜなら、この1年間で、研究の面白さを知り、研究を進めるスキルを身に付けたからです。研究を味方に付けた教員人生がいよいよ始まるのです。この1年間を遠い昔の思い出にしないように。



＊米田 宏樹 先生＊

研修生の皆さん、研修お疲れ様でした。課題研究での取り組みのほか、授業の聴講や学校・施設見学など、皆さんが各自の興味関心に応じた充実した研修をされている様子をうれしく拝見していました。研修の成果が子どもたちの教育実践に活かされることを期待しております。どうぞ、お元気でご活躍ください。

■研修生日記

センターの日々の研修の中で、特別支援教育についての視野を広げることができた1年間でした。テーマとしては、知的障害特別支援学校と放課後等デイサービスの情報交換・連携の研究に取り組みました。御指導くださいました柘植雅義先生、研修生活を支えてくださいましたセンターの先生方に心より御礼申し上げます。いただいた御支援に報いることができるよう、4月からまた現場で頑張っていきたいと思います。

＊西原教馬

(千葉県立市川特別支援学校)



センター講義や演習、課題研究、附属校や首都圏各校の参観・研究会への参加等、多くの経験をさせていただきました。このような機会を与えてくださった静岡県の先生方、研修プログラムを企画・運営してくださった人間系やセンターの先生方に感謝いたします。また、指導教員の小島道生先生には研究の計画から、結果の分析の方法に至るまで、年間を通じて丁寧に御指導いただき深く感謝申し上げます。

今後は学んだことをアウトプットしていくよう努力したいと思います。

＊宮澤 晃尚

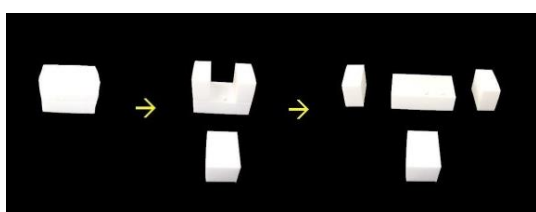
(静岡県立沼津特別支援学校)



■ 5 附属連絡会議を振り返って

本年度4月、附属特別支援学校の先生方よりご協力頂き、320を超える教材情報を集約した教材指導法データベースを一般公開することができました。そこで、本年度の5附属会議は各校より2、3名の構成員にご出席いただき、データベースの検討あるいは教材に関する議論を深めてきました。その成果として、データベース英語版の作成、動画データの実装ができました。ご協力頂きました先生方、ありがとうございました。

また、本年度は新たな試みとして5附属連絡会議を附属特別支援学校各校で開催し、併せて学校参観を実施させていただきました。5附属連絡会議の後半には、データベース学習会を開催し、各校よりデータベースに掲載されている教材の紹介や教材の作成、また他附属で使用している教材を自校で実践した事例の発表等をしていただきました。各校で5附属連絡会議を実施した折には、参観、ご発表、ご参加いただきありがとうございました。おかげさまで大変有意義な会議となりました。この場を借りてお礼申し上げます。



視覚



桐が丘（大塚の教材の活用）



大塚



久里浜



聴覚

「リベットさし」(大塚の教材の視覚での活用)



さわってわかるようにアレンジ

■ 附属ニュース（附属大塚特別支援学校）

NHKのEテレで放送中の「ストレッチマンV」が本校で収録され、2月9日に放送されました。

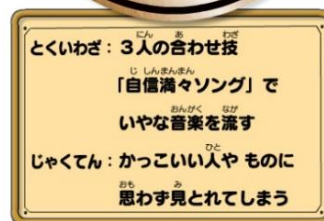
「ストレッチマンV」は、特別支援学校を襲撃する怪人（先生）をストレッチで倒し、子ども達に体を動かすきっかけをつくるという番組です。今回は番組史上初の複数名（3人）の怪人、副校長の怪人、生徒の怪人、高等部教員の怪人が登場するという異例づくしの収録でした。収録当日は小学部の児童がバンド怪人ロッカーズに襲われるという設定で撮影され、最後はストレッチマンオレンジとみんなでストレッチをして怪人を倒しました。収録後には「今日は、怪人マイマイク（副校長）は来ない？」と尋ねる児童や保護者が増えました。副校長は、最初恥ずかしくて嫌がっていましたが、今回の出演を通して、子どもや保護者との距離がグッと近づいたようです。副校長は「やってよかった」と喜んでいました。

■再放送の予定 5月25日(木)、6月1日(木)、共に午前9時00分～9時10分

■動画の視聴 <http://www.nhk.or.jp/tokushi/sman5/>



バンド怪人 ロッカーズ



とくいわざ：3人の合わせ技

「自信満々ソング」で

いやな音楽を流す

じゃくてん：かつこいいいやものに

思わず見とれてしまう